

旅行のプレゼンターになろう！ ～関係代名詞を利用して～

本単元で育成する資質・能力

「主体性」「課題解決力(探究力)」「ふりかえり力(メタ認知力)」

- 1 日 時 令和元年11月19日(火) 6校時(14:30～15:20)
- 2 学年・組 第3学年A組(男子 16名, 女子 9名, 計 25名)

3 単元観

本単元は、学習指導要領における「(4) 話すこと〔発表〕」の「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。」と「(5) 書くこと」の「イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。」を目標とし、自らが選んだ県を旅行のプレゼンターとして英語で案内をする単元である。

言語材料としては説明文には欠かせない関係代名詞を扱うが、2年既習事項の There is (are)～。

「～があります」なども使わせたい。広島県に育った生徒が他県のアピールポイントを探しそれぞれの提案場所の必要な情報を集めなければならず、また具体的な説明をするため、プレゼンターとして相手意識を持ち、よりよく相手に伝わるような工夫も必要である。

また、他県を調べ知ることにより、広島県の良さに気づき、道徳の授業における、内容項目C「主として集団や社会との関わりに関すること(16) 郷土を愛する態度」にも関連づけることができる。

4 生徒観

本学年生徒が3学年9月に行ったBCCとのweb会議後のアンケート結果によると、web会議をやってみての感想は「楽しかった」「勉強になった」との回答が23人(92%)と好印象だったようだ。また、同時に英語についての質問で英語は好きだの回答では、「好きだ」「まあ好きな方だ」との肯定評価が11人に対し、「好きではない」「嫌いだ」が14人と上回った。英語で文章を書くことが苦手だの回答は「とても苦手だ」「まあ苦手な方だ」が19人、「あまり苦手意識はない」「英文が書ける」は6名だった。このことから英語は苦手、書くことが苦手だと思う生徒が多いことが分かる。

また、試験などで見た彼らのミスを見ても、やはり書くことにつまずきを感じる生徒が多い。たいがい単語のスペルミスに始まり、文構造の理解や基本的な英文を書くときのルールをもきちんとできない生徒もいる。また、書けない生徒は読むことも話すことも苦手な一面が見える。

これらのことから、「話すこと」についても「書くこと」についても、事実や自分の気持ち、考えを「まとまりのある」文で、相手に伝えるということに対して課題があることが分かる。

5 指導観

指導にあたっては、以下の工夫を行う。

(1)主体的・対話的で深い学びに向けた指導の工夫

- ・生徒に自分たちが旅行プレゼンターとなり相手を前にして他県の案内や説明することを伝え、そのためにはどのような英文が必要かを考えさせる。
- ・文法学習する際に、例文を示し、先行詞と関係代名詞の関係性を生徒自ら発見、理解し説明させる。
- ・自分たちが書いた説明文を他人と比較することで、より相手に伝わる説明とは何が必要かを考えさせる。

(2)振り返り場面の指導の工夫

- ・「授業中に理解できたこと、できなかったこと」、「新しく学んだこと」、「これまでに学習したこととのつながり」、「学習したことをこれから先のどんな場面で生かせるか」など、振り返りの視点を明確にする。
- ・他県を担当している生徒と説明文を読みあい、相互に評価し、自己の振り返りに生かす。

(3)生徒の実態に合わせた指導の工夫

- ・単元の初めに単元計画とパフォーマンス課題を提示し、最終のゴールに向けて見通しを持って取り組ませる。
- ・本時の学習の流れを提示し、見通しを持たせる。
- ・授業開始時にウォーミングアップとして既習事項の復習やスピーキングのペア活動（small talk）を行う。

6 単元の目標と評価規準

<単元の目標>

- ・聞き手が理解しやすくなるような様々な工夫をしている。
- ・新出文法と既習文法を用いながら英文を書き、聞き手に正しく表現する。
- ・関係代名詞や既習の文法事項を用いて、相手に事実や自分の考えを正しく伝わるように話すことができる。
- ・課題解決に必要な情報を取捨選択し、関係代名詞や既習の文法事項を用いて、相手に事実や自分の考えを正しく伝わるように書くことができる。
- ・関係代名詞が使われている紹介文を聞き、情報を正しく理解することができる

<評価規準>

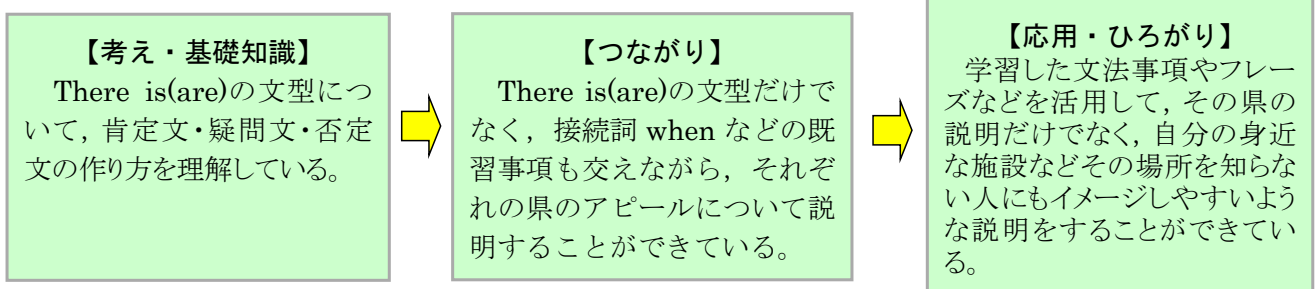
ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
・関係代名詞などを用いて相手が理解しやすく積極的に伝えようとしている。	・関係代名詞などを用いて相手に正しく伝わるように話すことができる。 ・説明する県について、具体的な情報を書くことができる。	・関係代名詞が入った英文を聞いたり読んだりして、意味を把握することができる。 ・紹介文を聞いて正しく理解することができる	・関係代名詞の基本用法を理解することができる。 ・説明に必要な情報を集めることができる。

7 指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	I	C	E
主体性	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に向けて、必要な文法事項を理解しようとしている。 課題解決のためにThere is(are)の文型を用いて説明しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために必要な情報を選択し、There is(are)の文型だけでなく学習した表現を用いて紹介しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために必要な情報を選択し、There is(are)の文型や既習の表現を用いた紹介だけでなく、それぞれの場所の説明や詳しい情報なども伝えようとしている。
課題解決力 (探究力)	<ul style="list-style-type: none"> 提示した課題について、There is(are)の文型を用いて解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手が理解しやすいように接続詞whenやmustなどの文で具体的な説明を加えて、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> まとまりのある英文での説明に加えて、相手がイメージできるように、場所の説明や詳しい情報を伝えることができる。
ふりかえり力 (メタ認知力)	<ul style="list-style-type: none"> There is(are)の文型について、肯定文・疑問文・否定文の基本的な作り方をどこまで理解できているかが分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手が正しく理解できるように、There is(are)の文型だけでなく既習の学習事項も用いた具体的な説明が必要ということどこまで理解しているかが分かっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出・既習の文法事項を交えてまとまりのある英文で説明をすることを活用して、相手意識を持ち、場所の説明や詳しい情報などについて伝えることができるということどこまで理解しているかが分かっている。

【ICEモデル】



(全 10 時間)

次	学習活動	生徒の思考の流れ	観点		評価	
			関	表理知		
課題の設定 本時の目標：パフォーマンス課題を知り、解決するための手段や方法についてまとめることができる。						
	<ul style="list-style-type: none"> ○パフォーマンス課題の確認をする。 ・黒板に貼り、これから何に取り組むかを話す。最終的にエミリー先生に向けて提案することを伝え、関心を持たせる。 ・どんな英文が使えるか話し合ってみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エミリー先生に興味を持ってもらうためにはどんな情報がいいのかな。 ・どんな説明が必要になるかなあ。 			○	◇県の魅力やお薦めに関心を持ってもらうためにはどんな説明が必要かペアでよく話し合っている。
情報の収集① 本時の目標：「関係代名詞 (主格)」という英文の文構造を理解することができる。						
	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な文法事項 (主格関係代名詞) をみんなで考えてみる。 ・説明に必要な表現やスピーキング 	<ul style="list-style-type: none"> ・主格関係代名詞は関係代名詞のあとには動詞がくるんだ。 			○	

	<p>でのアクセント・イントネーションの意識をする。</p> <p>・様々な写真を提示し、関係代名詞（主格）を用い英文を作る。</p>	<p>・関係代名詞は文と文をつなぐ接着剤なんだ。</p> <p>・いろんな人や物を詳しく説明をするために必要な文法なんだな。</p>				<p>◇関係代名詞（主格）の文の構造が言葉で説明できる。</p> <p>★課題解決のため、情報を収集し、それをどのように活用するか意欲的に考えようとしている。（行動観察）【主体性】</p>
情報の収集②		本時の目標：「関係代名詞（目的格）」という英文の文構造を理解することができる。				
	<p>○必要な文法事項（目的格関係代名詞）をみんなで考えてみる。</p> <p>・様々な写真を提示し、関係代名詞（主格）を用い英文を作る。</p>	<p>・主格と目的格ってどちらがうんだ？</p> <p>・関係代名詞の後ろは主語＋動詞の語順になるんだな。</p>			○	<p>◇関係代名詞（目的格）の文の構造が言葉で説明できる。</p> <p>★課題解決のため、情報を収集し、それをどのように活用するか意欲的に考えようとしている。（行動観察）【主体性】</p>
情報の収集③		本時の目標：「～がある、いる」という表現が入った英文を読み、文法事項を正しく理解することができる。				
	<p>・There is(are)の表現が「～がある（いる）」という意味であることに気づく。</p> <p>○There is(are)の文型の作り方を確認し、練習する。</p>	<p>・単数の時はis、複数の時はareを使っている。これは1年生で学習したbe動詞の用法だな。</p> <p>・There is(are)の文の最後に場所の表現をつけると具体的になるのだな。</p>			○	<p>◇There is(are)の文型と場所を表す表現を正しく活用して絵の説明ができています。（ワークシート）</p> <p>★課題解決のため、情報を収集し、それをどのように活用するか意欲的に考えようとしている。（行動観察）【主体性】</p>
情報の収集④		本時の目標：調べ学習を通して、自らが選んだ府県の情報を集めることができる。				
	<p>○例文に従って自分たちが選んだ府県のお薦めや特徴や情報をできるだけ多く集めよう。</p> <p>・最低8文以上であることを伝える。</p>	<p>・どんな情報がいいかなあ。</p> <p>・8文以上なんて僕たちには無理だよ。</p>			○	<p>◇例文を示し、（ ）に埋めていくようなものに日本語訳を書いていく。（ワークシート）</p> <p>★課題解決のため、情報を収集し、それをどのように活用するか意欲的に考えようとしている。（行動観察）【主体性】</p>
整理・分析		本時の目標：集めた情報をもとに自分たちのプレゼン資料の日本語版を完成させる。				
7	<p>○集めた情報を十分に活用し、自分たちのプレゼン日本語版を完成させる。</p> <p>・お互いの情報を公開し、ペアで考えてグループで議論する。（相手に関心を持ってもらうにはどの情報を入れるべきか）</p>	<p>・みんなどんなこと書いたんだろう。</p> <p>・こっちの情報のほうが興味あるんじゃないかな。</p> <p>・もっと説明があったほうがいいんじゃない？</p>			○	<p>◇例文を参考に完成した日本語訳をお互い発表しあい、改善点や工夫点を見つけることができる。（ワークシート）</p> <p>★課題解決のため、相手がイメージしやすいように改善や工夫を加え、説明することができる。（ワークシート）【課題解決力】</p>
まとめ・創造・表現		本時の目標：周りとは議論しながら自分たちのプレゼンの英文を完成することができる。				
本時	<p>○完成した日本語訳をもとに、英文を書いていく。</p> <p>・最初は個人思考、次にペア思考する。それからグループで互い</p>	<p>・難しいなあ・・・。</p> <p>・理由はbecauseを使うんだな。</p>			○	<p>・ヒントカード配布</p> <p>◇ヒントカードをもとに、英作文に取り組むことができ、またペアやグループで活発な意見交換ができる。</p>

<p>に発表して（日本文訳を含む）話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・できることはいくつ盛り込めばいいだろう。 ・どちらの内容のほうが興味をひくかなあ。 ・あのペアの英文良かったから真似しよう。 		<p>(ワークシート)</p> <p>★説明文が書かれた英文を読むことを通して、説明文をさらに良くするためにどんな英文が必要かが分かっている。(行動観察・ワークシート)【課題解決力】</p>
----------------------------	---	--	---

まとめ・創造・表現② 本時の目標：説明文を完成させ、相手意識を持ったプレゼンとは何かがわかる。

<p>○説明文を完成する。 実行・振り返り たポイントなどを英文に加えて、ながりが自然な説明文を完成する。</p> <p>○グループ内でお互いの説明文を読む練習をする。 ・相手に伝わりやすいように話すことを意識する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日どんな意見が出たっけ。 ・英文をどう構成させればいいかな。 ・アイコンタクトしながら話せるように、説明文は覚えよう。 ・発表時は写真とか準備したほうがいいね。 		<p>○◇必要な情報を適切に取り入れた説明文を完成することができる。(完成した説明文)</p> <p>★その場所を知らない人でもイメージがしやすいような説明文を完成することができる。(行動観察・完成した説明文)【課題解決力】</p>
--	---	--	--

10 本時の目標：エミリー先生にペアで広島周辺の府県について旅行プレゼンターとしてプレゼンをすることができる。

<p>○ペアで発表練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班内のもう1つのペアと一緒に発表練習をする。 <p>○エミリー先生に向けてペアごとに発表をする。</p> <p>○発表を終えて、この単元を通して思ったことや感じたことなどを振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他県を調べて広島と比べたり他のペアと比べたりした気づきなどを書く。 ・自分の説明の良かったところや今後につなげる課題点などを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイコンタクトを意識しよう。 ・この写真でわかるかな。 ・うまく英語で言えるといいな。 ・他のペアは見せるための写真を複数準備していたな。 ・相手を意識した発表になっていたな。 		<p>○◇アイコンタクトなどを意識し、相手に自分たちの選択した府県についてお薦めスポットなどのプレゼンができる。(行動観察)</p> <p>★関係代名詞の入った文やThere is(are)の文型と既習の文法事項を交えて、自分がどのような説明文を書くことができるようになったかということが分かる。(ワークシート)【ふりかえり力】</p>
--	---	--	--

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	主体性, 課題解決力(探究力), ふりかえり力(メタ認知力)
教科の評価規準	関係代名詞, There is (are)を用いて, つながりのある英語でお薦めの場所のプレゼンができる。

パフォーマンス課題のシナリオ

来日して1年半のエミリー先生もまだまだ広島近辺の県はよく知りません。そこで, 中四国近畿の府県で近場だけれど, ここはぜひ行くべきだ, 行ってほしいと思われる場所を厳選し, 旅行のプレゼンターとしてエミリー先生が行きたくなるようなプレゼンを試みよう。ペアで以下の条件を満たした紹介文を完成させましょう。

条件

- ・ペアで担当府県について, 8文以上の英語で説明する。
- ・説明の中には現単元の関係代名詞を用いた表現を必ず入れる。(1文もしくは2文)
- ・また There is, There are を用いて「～がある」という表現を必ず入れる。(2年時既習事項)
- ・選んだ理由やそこでできることなど具体的な魅力の説明を加える。

予備的ルーブリック

尺度 (評点, レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	担当の府県についてThere is, There areの文型や関係代名詞の文, 既習文法事項を用いて具体的に説明し, 相手により正確に伝える工夫をすることができている。 (例) There are a lot of flowers here. When you come here, you can see a beautiful sea and eat original ice cream too. This is the place that you can play with your dog because there is a big park here.
2 合格	担当の府県についてThere is, There areの文型を用いて説明するだけでなく, 既習の文法事項を用いて相手がその場所をイメージできる情報を加えることができている。 (例) There are a lot of flowers here. You can see beautiful sea. And you can eat original ice cream too.
1 乗り越えさせたい実態	There is, There areの文型を用いて何があるかを簡単に説明することができている。 (例) There are a lot of flowers here. There is a big park too.

8 本時の学習

(1) 本時の目標

周りと議論しながら, プレゼンの英文を書くことができる。

(2) 本時の評価規準

相手意識を持った, 分かりやすくつながりのある英文を書くことができている。

【外国語表現の能力】

(3) 準備物

PC, 液晶TV, ワークシート, ヒントシート, 辞書, パフォーマンス課題掲示物など

(4) 本時の展開

学習活動	◇指導上の留意事項 ◆配慮の必要な生徒への支援	評価規準 (評価方法)	資質・能力 (評価方法)
1 ウォーミングアップ [15分]			
○あいさつ ・ small talk ・ word test ・ review reading	◇スピーキング活動などを行い、英語学習のウォーミングアップを行う。 ◆使う会話文の指定をする。		
2 関係代名詞の復習をする。 [5分]			
○本時に必要な文型を復習する。 【本時の目標】 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 周りと議論しながら、自分たちのプレゼンの英文を完成することができる。 </div>	◇主格の文，目的格の文ともに写真と訳をもとに例文を完成する。		
3 相手に伝わりやすい説明文に必要なことを考える。 [25分]			
○説明文を書く。(個人) ・ペアで話し合いながら書いてみる。 ・他のペアと議論を交わしながら仕上げていく。 ・英文完成に向けペアで再思考。	◇「～がある」や関係代名詞をどんなふうにするか，相手にとって理解しやすいかどうか考える。 ◆ヒントカードを配る。 ・訳文も含めてどんな内容がより分かりやすいか，イメージしやすいかなど議論する。 ・ペアで興味を持ってもらうために必要なものは何か考える。	相手を意識した英文を書くことができる。(行動観察・ワークシート)	説明文をさらに良くするためにどんな英文が必要かが分かっている。 (行動観察・ワークシート) 【課題解決力】
4 本時を振り返り，次時につなげる。 [5分]			
○次時はエミリー先生へのプレゼンをする事を伝える。 ○振り返りをする。	◇発表の準備物を準備しなければならないことに気づく。 ◇今回の活動を通して分かったこと，できたこと，他単元との関連，新たな疑問，気づき，難しかったことなどを記述させる。		

板書計画

November, 19th, Tuesday

Today's Aim

周りと議論しながら、自分たちのプレゼンの英文を完成することができる。

パフォーマンス課題と英作文の条件

Greeting

Small talk

写真

This is my friend. She lives in Fukuyama.

Word test

This is my friend who lives in Fukuyama.

Review reading

写真

This is a bus. It goes to Fukuyama station.

Review grammar

This is a bus which goes to Fukuyama station.

Making sentences

写真

This is a car. I bought it this year.

Reflection

This is a car which I bought this year.